

石川県白山自然保護センター普及誌

# はくさん

第34巻 第2号



## 白山麓の風景一黍<sup>きび</sup>、実る秋

白山麓では、昭和30～40年頃までたくさん栽培されていたアワやヒエ・キビなどの雑穀類が、いまでもわずかながら栽培されています。

かつては主食でもあったアワやヒエは、焼畑耕作などによりさかんに栽培され、白山麓の大切な作物でしたが、食生活が豊かになり、焼畑もなくなり、めっきり減ってしまいました。

現在、白山麓で見られるアワやキビなどの耕作の風景は、白山麓の人たちの雑穀に対する郷愁が感じられます。また、最近、白山麓の民宿などでヒエが入った雑炊やご飯を出してくれるところが出てきましたが、さっぱりした味わいは印象深いものがあります。雑穀類はもっと見直されてもよい農作物ではないかと思われます。  
(林 哲)



# 白山のキツネは何を食べているのか

— 糞分析によるキツネ、テン、オコジョの食べ物 —

上馬 康生 (白山自然保護センター)

写真1は白山の別山山頂近くで2000年8月5日に登山者によって撮影されたキツネです。キツネが白山の高山帯に生息していることは、はくさん第32巻第1号で紹介しました。そのときは食べ物について細かく分かっていませんでしたが、今回はキツネとテン、オコジョの食べ物について調べ直し、食べたものの種名まで調べ、何を食べていたのかが、かなり明らかになりましたので紹介します。



## 糞の内容物を調べる

糞は一つひとつ、登山道周辺に見つかったものすべてをピンセットで拾い(写真2)、ビニール袋に入れ、種類や採集場所、標高などを記録しました。持ち帰った糞は、水洗いして細かい網に残った固形物を集め、乾燥してから糞1個ずつビンに入れて保存しました。固形物の多くは体毛であったり骨であったり、植物の種子でしたが、中には人為物質(ヒトが落としたりと思われるゴミ)もありました。哺乳類の体毛は直接、顕微鏡で外部形態や内部構造を観察し、またスンプ法という方法(セルロイド製の平板の上に有機溶剤を用いて毛の表面印画を取り、表面の鱗片模様を顕微鏡でみる)で観察し、種名を明らかにしました。鳥類の羽毛は、夏から秋に白山に生息している種で、センターに保管されている標本の羽毛を参考に調べました。植物の種子は顕微鏡でセンターに保管されている種子標本とくらべて、また標本のないものは、石川茂雄著「原色植物種子写真図鑑」により種名を明らかにしました。骨に関しては、同じ糞に哺乳類の体毛や鳥類の羽毛が入っていたものはそれらの骨とみなし、骨のみが見つかったものを骨と分類しました。



## キツネの糞にはノウサギの毛が多い

キツネ、テン、オコジョの糞の内容物を動物物質、植物物質に分けてみると、キツネは動物



写真1 別山山頂付近のキツネ  
撮影：高田昌嗣氏



写真2 テンの糞を採集する

表1 キツネ・テン・オコジョの糞に見つかった動物物質の数と出現頻度

種類	トガリネズミ科	モグラ科	ネズミ科	ノウサギ	カモシカ	不明哺乳類	鳥類	骨	卵殻	貝類	昆虫類	合計
キツネ	6 (4.1)	20(13.7)	34(23.3)	90(61.6)	1(0.7)	4 (2.7)	13 (8.9)				48(32.9)	216
テン	13 (3.1)	12 (2.9)	27 (6.5)	60(14.5)		10 (2.4)	23 (5.6)	22(5.3)	2(0.5)	1(0.2)	208(67.6)	378
オコジョ	8(13.3)	11(18.3)	6(10.0)	4 (6.7)		13(21.7)	10(16.7)				18(30.0)	70
合計	27	43	67	154	1	7	46	22	2	1	274	664

( ) 内出現頻度%。ただし、採集糞数はキツネ 146、テン 414、オコジョ 60。

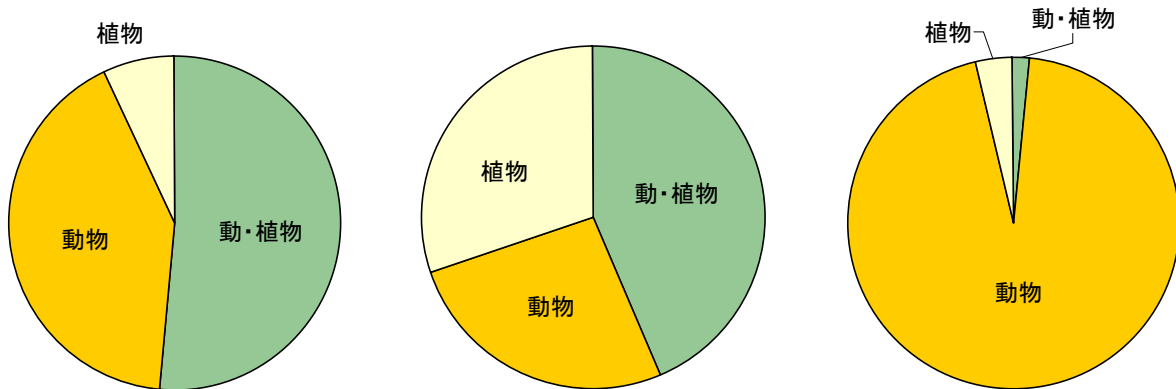


図1 キツネ (左)・テン (中)・オコジョ (右) の食べ物

物質が多く、テンは動物物質と植物物質を同じくらい、オコジョはほとんどすべてが動物物質でした (図1)。さらに動物物質が何であるかを調べてみると、表1のように分類できました。キツネではノウサギの出現頻度 (キツネの糞全体に占める割合) が61.6%と多くの糞に見つかりました。また昆虫類が32.9%、ネズミ科が23.3%、モグラ科が13.7%、鳥類が8.9%、トガリネズミ科が4.1%、カモシカが0.7% (1個) の糞に見つかり、他に種不明の哺乳類の体毛がありました。半分以上の糞にノウサギの毛が入っていたことになり、キツネにとっては重要な食べ物であることが分かります。次にテンの糞では昆虫類が67.6%、ノウサギが14.5%、ネズミ科が6.5%、鳥類が5.6%の糞に見つかり、他に種不明の骨や体毛、貝類、卵殻がありました。昆虫が主要な食べ物で哺乳類の中ではノウサギを比較的多く食べていました。また骨は、哺乳類や鳥類以外に爬虫類や両生類が入っている可能性があります、分類できていません。オコジョの糞では昆虫類が30.0%、モグラ科18.3%、鳥類16.7%、トガリネズミ科13.3%、ネズミ科10.0%、ノウサギ6.7%の順で多く見つかり、昆虫と小動物がほとんどを占めていることが分かります。同じ食肉目の3種ですが、食べ物となる動物物質にはそれぞれ違いがあることが分かります。

トガリネズミ科ではシントウトガリネズミとアズミトガリネズミ、ジネズミの識別が、ネズミ科ではヤチネズミとハタネズミ、スミスネズミの識別が十分にできていません。小型哺乳類として種名が明らかとなっているものにジネズミ、ヒミズ、ヒメヒミズ、ハタネズミ、アカネズミがあり、前記識別ができていない種の他にもミズラモグラとヒメネズミの可能性のあるものが見つかります。鳥類ではキツネの糞にイワヒバリと考えられる羽毛がありましたが、他には明確な特徴が残っているものはなく、特にオコジョやテンの糞の中にはごく一部しか入っておらず、残念ながら他の種名を明らかにすることはできませんでした。



## キツネやオコジョの糞は高山に多い

3種の糞の標高別の割合を示したのが図2です。キツネとオコジョは標高2,000m以上の高いところの方の割合が高く、逆にテンは標高が低いところの方の割合が高くなっています。オコジョは高

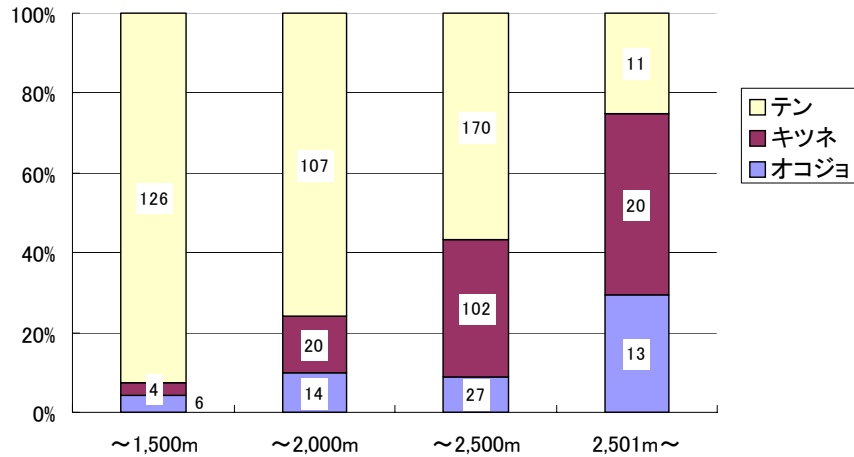


図2 キツネ・テン・オコジョの糞の標高別分布  
数字は糞の数

山の動物といわれていますので、高山に多くても不思議ではありませんが、キツネは決して高山の動物ではありません。今まで分かっている巣穴や子ギツネは、白山麓の標高300m前後の集落近くで見つかっていますが、白山の登山道では巣穴も子連れも見つかりません。それなのに標高2,000m以上に糞が多いというのは、なぜなのでしょう。

キツネの糞にはヒトがゴミとして落とした人為物質が見つかります。人為物質はキツネの糞21個とテンの糞1個に見つかり、圧倒的にキツネに多いことが分かりました。キツネの糞全体146個の14.4%に人為物質が見つかったことになり、少なくないことが分かります。具体的な人為物質は表2のとおりでした。ゴマは人の食べ物に入っていたものが消化されずに出てきたものと思われます。輪ゴムやビニール、紙などはゴミとして捨てられた食べ物と一緒に飲み込んだのでしょう。アンズやリンゴも白山麓には栽培されていないので、それらの食べかすをキツネが食べて種子が糞と共に出土ものと推定されます。

表2 人為物質の種類と数

人為物質	個数
ゴマ	9
輪ゴム	6
ビニール	3
紙	2
煙草フィルター	1
化学繊維	1
プラスチック	1
ナッツ	1
ダイズ	1
アンズ	1
リンゴ	1

図3に動物物質と人為物質の標高別分布を示しました。注目してほしいのは人為物質の分布がほとんど標高2,000m以上にある点です。考えられるのはキツネが人里など低地でゴミを食べて高山まで上がってきて糞をしたのか、それとも白山の登山道や高山でゴミを食べて糞をしたのかです。後で述べるように糞に入っていた植物の種子から、低地から上がってきているキツネがいるのは間違いありません。しかし、前に述べたようにキツネの糞は2,000m以上の方がそれ以下より多く見つかっているのです。低地でゴミを食べたのなら、2,000m以下でももう少し多くキツネの糞が見つかると思います。つまり、キツネは白山の標高2,000m以上のところでゴミの多くを食べていた可能性が高いのです。それは、私たち登山者が出したゴミ、中には知らず知らずこぼれ落ちたものもあることでしょう。人が多く利用する場所に、そこから出るゴミを頼りにキツネが移動してきたと考えられるのです。

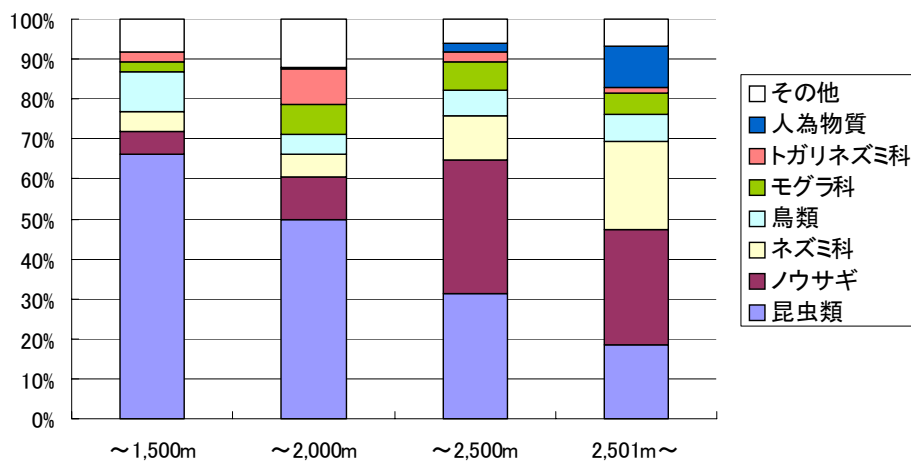


図3 動物物質と人為物質の入っていた糞の標高別分布



## キツネはイチゴ類やキヌガサソウの実も食べる

キツネは植物の果実もよく食べます。表3は糞の中に見つかった種子から、種名を明らかにできたものです。キツネがよく食べているのは、ベニバナイチゴで出現頻度25.3%、次いでキヌガサソウ15.1%、サルナシ8.2%、ニガイチゴ4.8%でした。ベニバナイチゴは白山では亜高山帯から高山帯に比較的広く分布しており、果実も大きく夏の終わりから秋の初めの主要な食べ物の一つとなっているようです(写真3)。テンは特にドクウツギの実を好んでいるようで出現頻度32.1%、次

表3 キツネ・テン・オコジヨの糞に見つかった植物(種子)と出現頻度

科名	種名	キツネ	テン	オコジヨ	備考
イチイ科	イチイ		1 (0.2)		
ブナ科	ミズナラ	1 (0.7)			
	ミズヒキ		1 (0.2)		?
マタタビ科	サルナシ	12 (8.2)	38 (9.2)		
	マタタビ		8 (1.9)	1 (1.7)	
バラ科	ミヤマキンバイ	1 (0.7)			
	ウワミズザクラ	1 (0.7)	3 (0.7)		
	ミネザクラ	3 (2.1)	9 (2.2)		
	ニガイチゴ	7 (4.8)	10 (2.4)		
	ミヤマニガイチゴ	2 (1.4)	14 (3.4)		
	エビガライチゴ		5 (1.2)		
	ベニバナイチゴ	37 (25.3)	54 (13.0)		
	ナナカマド	3 (2.1)			
マメ科	ミヤコグサ	5 (3.4)	4 (1.0)		?
フウロソウ科	ハクサンフウロ	2 (1.4)			?
ドクウツギ科	ドクウツギ	4 (2.7)	133 (32.1)		
モチノキ科	モチノキ	1 (0.7)			
ブドウ科	ヤマブドウ	2 (1.4)			
スマレ科	ツボスミレ		1 (0.2)		?
ミズキ科	ミズキ	2 (1.4)			
ウコギ科	コシアブラ	1 (0.7)			
	ウド	7 (4.8)	11 (2.7)	1 (1.7)	
セリ科	シシウド	1 (0.7)			?
	ミヤマウイキョウ	1 (0.7)			?
ツツジ科	ホツツジ	1 (0.7)			?
	シラタマノキ		1 (0.2)		
	ウスノキ	2 (1.4)	2 (0.5)		
	アクシバ		1 (0.2)		
	ナツハゼ	1 (0.7)	4 (1.0)		
	クロウソゴ	1 (0.7)	1 (0.2)	1 (1.7)	
	オオバスノキ	1 (0.7)			
	クロマメノキ	5 (3.4)	2 (0.5)		
	コケモモ		1 (0.2)		
ガンコウラン科	ガンコウラン	2 (1.4)			
スイカズラ科	オオカメノキ		2 (0.5)		
ユリ科	マイヅルソウ		1 (0.2)		
	キヌガサソウ	22 (15.1)	79 (19.1)		
	オオバタケシマラン	1 (0.7)			
イネ科	チガヤ	2 (1.4)			?
不明	不明	4 (2.7)	10 (2.4)		

( ) 内出現頻度%。ただし、採集糞数はキツネ 146、テン 414、オコジヨ 60。? は食物であるか疑問の種。種不明の糞に、他にイワオトギリ、ヒメモチ、タカノツメ、オオヒョウタンボクがいずれも1個見つかる。



いでキヌガサソウ 19.1%、ベニバナイチゴ 13.0%、サルナシ 9.2%、ミヤマニガイチゴ 3.4%と続き、キツネよりも果実を多く食べていました。代表的な3種の種子を写真4に示しました。次に図4に種子の入っていた糞の数の季節変化を示しました。それぞれの植物の実が熟す時期と対応しているようですが、サルナシ（マタタビ科）については、果実がまだ熟していないと思われる7月下旬や8月上旬にも食べられていることと、この植物の分布が限られており数も多くないことをみると、キツネやテンにとっては美味しい食べ物であるのかもしれませんが、ウド、ミネザクラ、クロマメノキなども少数ながらキツネ、テン共に食べられています。なお、表3の備考欄に？をつけたものは、他の食べ物と一緒に入ったり、糞にたまたま付いていたりなど、食べ物としては疑問のある種です。



写真3 ベニバナイチゴ



写真4 サルナシ（左、長径2.6mm）、ドクウツギ（中、長径4.3mm）、ベニバナイチゴ（右、長径3.1mm）の種子

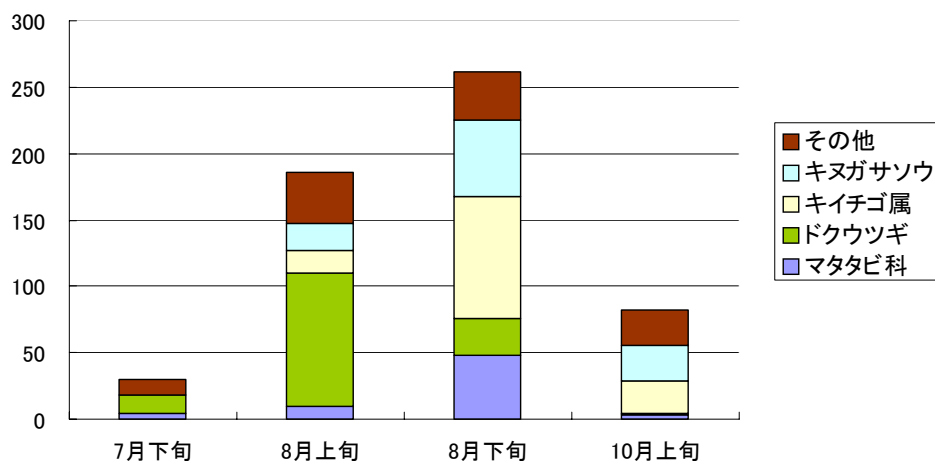


図4 種子の入っていた糞の数の季節変化



## キツネやテンは行動範囲が広い

主な種子の入っていた糞が、どの標高に落ちていたかを示したのが図5です。ドクウツギは砂防新道の標高1,500m以下に分布しており、糞に入っていたのも1,500m以下に多く、標高が高くなると少なくなっています。キイチゴ属やキヌガサソウも、その植物の分布と糞の中に見つかった標高の分布傾向は似ています。しかし、その植物が明らかに分布しない標高の高いところや低いところ

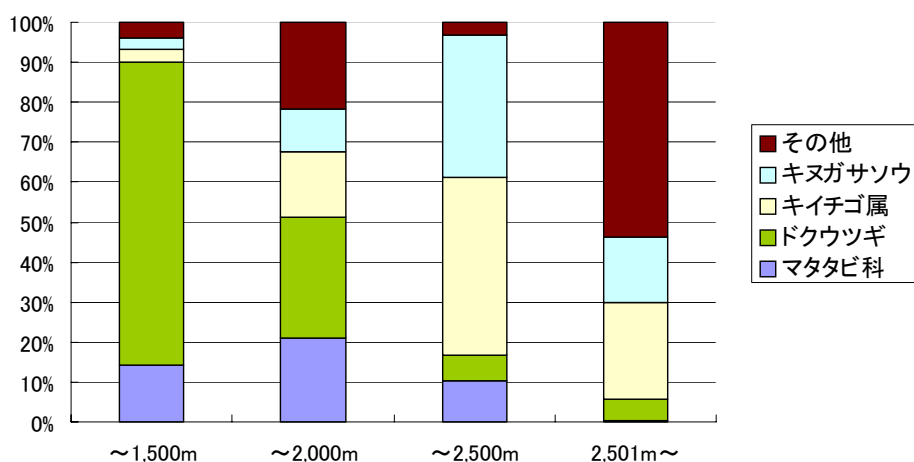


図5 種子の入っていた糞の標高別分布

で見つかった糞にも種子が入っていたことから、その動物によって運ばれたことが分かります。このことから、キツネやテンがどのくらいの距離を移動しているのかが、ある程度推定できます。

ドクウツギは、砂防新道の他、岩間道や楽々新道などの登山口より下に分布していますが、最も高い場所では大汝峰北方の標高 2,620m に落ちていたキツネの糞に、また中宮道の標高 2,325m に落ちていたテンの糞に入っていました。またマタタビ科のサルナシは、釈迦新道の標高 1,110m と別山市ノ瀬道の 1,050m 付近が登山道沿いでの分布の上限ですが、山頂お池めぐりコースの標高 2,520m で見つかったキツネの糞に種子が見つっています。これらのキツネやテンが、どの登山道を上ってきたのか（登山道でないかもしれません）が分からないので距離は正確には分かりませんが、たとえば大汝峰北方で見つかったキツネが岩間道や楽々新道を上がってきたとすれば、少なくとも 10km 以上移動していることとなります。このようにキツネやテンの中には、登山口付近で食べ物をとり山頂部まで移動していると考えられるものがあるようで、行動範囲が広いことが分かります。



## 冬から春の食べ物は

今回調査をして明らかになった食べ物は、夏から秋にかけての糞からの情報によるものです。それでは冬や春の積雪期は何を食べているのでしょうか。そもそも冬に白山の山頂部にキツネやテン、オコジョは生息しているのでしょうか。

私の今までの経験では、11月下旬の室堂付近で雪の上を行くキツネを見たことがあります。また2月上旬に登った時には、中飯場付近でオコジョの、そしてエコーライン付近でテンの足跡をそれぞれ雪の上に確認しています。また5月上旬に、南竜休憩所の中に多数のテンの古い糞や新しい糞を確認しています。食べ物となる小哺乳類やノウサギは、積雪期でも活動していますので、少なくともオコジョやテンは山頂部にも定住していると考えられますが、数は多くないと思われます。



## おわりに

今回の調査は私一人で行ったものではありません。徳野 力さん（野々市町在住）とふたりで白山の石川県内のすべての登山道を歩き、糞を採集しました。また動物物質の細かな分析作業は徳野さんに、また植物物質の分析作業は辻 摩子望さん（福井市在住）に、それぞれ中心となって行ってもらいました。より詳しい報告は、3人で執筆した石川県白山自然保護センター研究報告第32集をご覧ください。センターのホームページからもみていただくことができます。

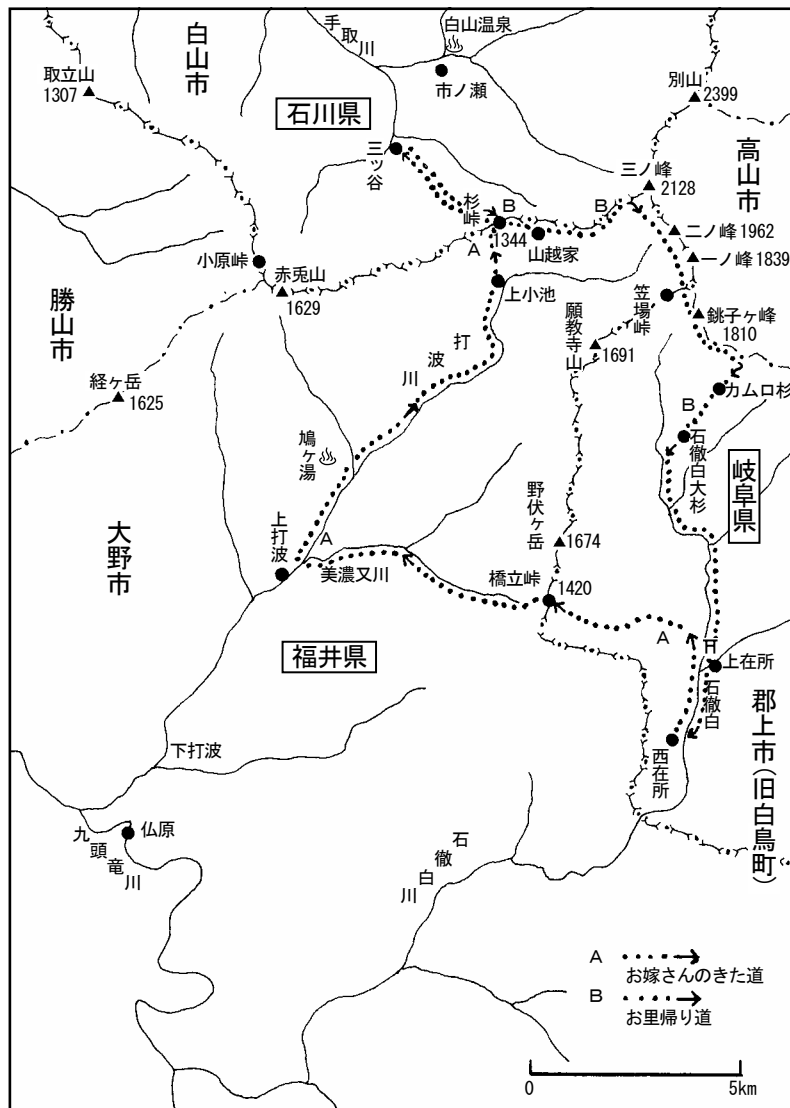
# 銀嶺を越える里帰りの道—白峰から石徹白へ—

橋 礼吉 (加能民俗の会 会長)

## 岐阜県石徹白のこと

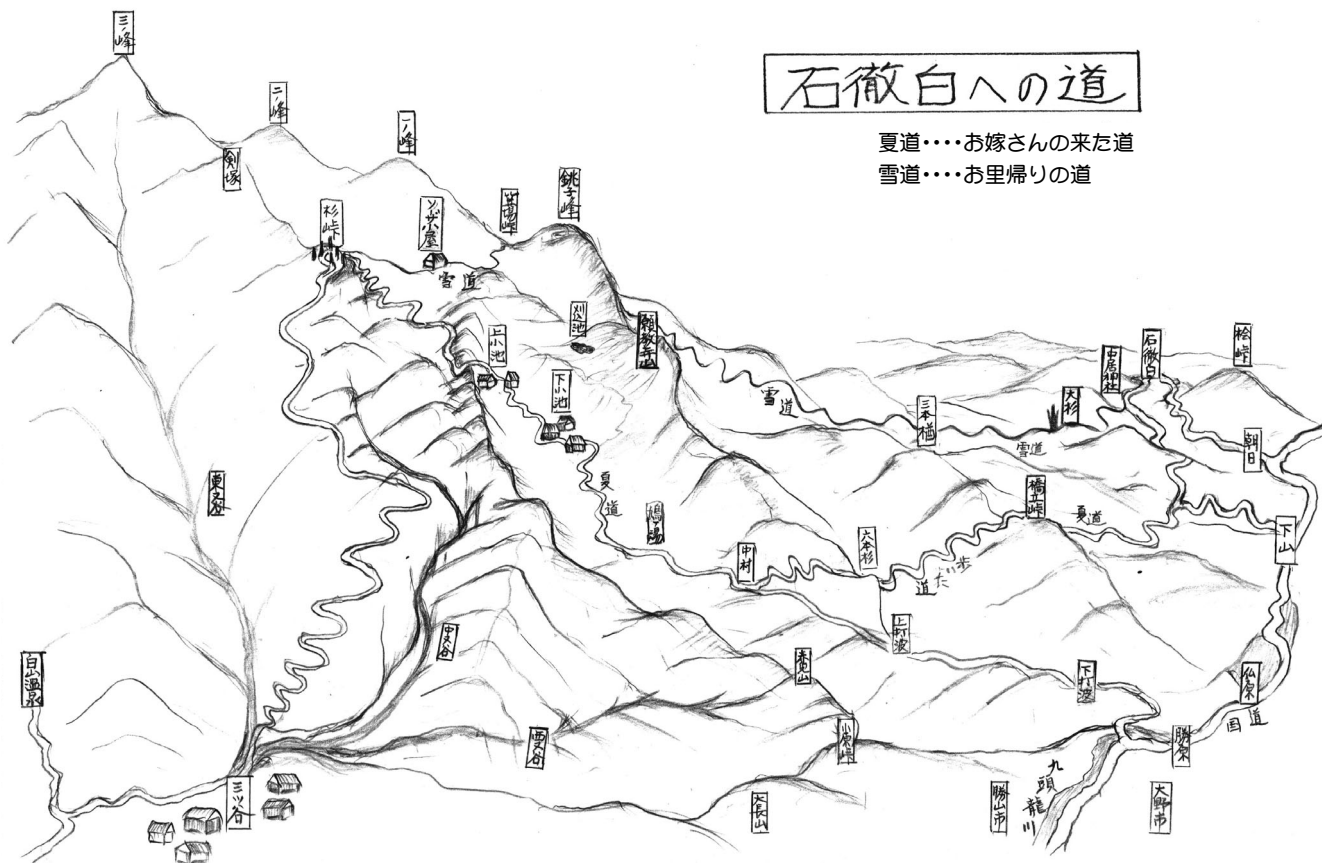
手取川本流最奥の人間居住地は市ノ瀬です。しかし冬は無人です。昭和9年の大水害時には、市ノ瀬11戸、左岸三ッ谷に13戸、右岸赤岩に20戸が夏も冬も生活していました。

かつて三ッ谷に住んでおられた林はるゑさん(明治43年生まれ。故人)は、岐阜県郡上市白鳥町石徹白より、万屋を営まれていた林七蔵さん方へ、数え年17歳の大正15年に嫁がれてきました。当時の石徹白は福井県に属し、その上在所には白山中居神社があり、かつては美濃禪定道の基地で、現在は三ノ峰・別山経由の登山道の出発地となっています。市ノ瀬・三ッ谷の男性は、積雪期には鋳の柄・雪搔板作り、檜笠の材料笠木採り、熊狩り等で石徹白の領域山地へ出かけていたのが



三ッ谷・石徹白概要図





## 石徹白への道

夏道・・・お嫁さんの来た道  
雪道・・・お里帰りの道

石徹白への道  
画：林 茂氏

縁で、婚姻関係が、細々とありました。

はるゑさんが嫁がれてくると、これが縁で、市ノ瀬で温泉旅館を経営されていた加藤 峯<sup>はじめ</sup>さん方へ、石徹白より加藤せんさん（明治 41 年生まれ）が嫁がれてきました。

## お嫁さんの来た道

石徹白は、<sup>かみ</sup>上・<sup>なか</sup>中・<sup>しも</sup>下・西の四在所に分かれ、林さん・加藤さん二人の実家は西在所標高 705m にありました。二人は山道を歩いてお嫁に来ました。そのコースを辿ると、まず西在所より上在所へ、そこから山道を 700m 登って橋立峠（1,420m）へ、峠からは美濃又川沿いに約 1,000m も下って上打波へ、それから打波川沿いを徐々に登り上小池経由で 870m 登り、福井県境杉峠（1,344m）に達して石川県へ、さらに尾根伝いに 500m 下って林さんの嫁ぎ先三ッ谷（800m）に着き、さらに加藤さんは一踏ん張りで市ノ瀬白山温泉（900m）へと歩き通したのです。

このコースを地形図上の水平距離で計ってみると林さんは 25.5km、加藤さんは 29km 歩いたこととなります。この数値は地形上の水平距離ですから、実際に歩いたのは水平道でなく坂道なので、距離数は幾分上乘せする必要があります。林さんの 25.5km の嫁入り道は、金沢より国道 8 号線伝いに小松までの距離にあてはまります。

嫁入り道の高低差を見ると、1 番目の橋立峠は登り 700m、下り 1,000m。2 番目の杉峠は登り 870m、下り 500m。これを金沢～小松間に例えてみると 25.5km の間に、登り 700m と 870m の二つの峠があったこととなります。

当時、歩いてお嫁に行くのはごく当り前のことですが、二人の嫁入り道は、長いこと、二つの峠越えのアップダウンが激しいこと、この行程で 3 足のワラジを履き潰したことを総合すると、他地域では見られない大変な嫁入道中だったのです。

## お里帰りの道

はるゑさんのお里帰りは、4月上旬～中旬と、8月のお盆、10月20日の石徹白秋祭りの年3回です。4月の里帰りの体験は、積雪期登山を体験してきた私をびっくりさせるものでした。残雪に覆われた2,000m級の白銀の尾根を、20歳にも満たない若い母親が、乳離れしたかしの乳幼児を肩におぶっていくのです。コースは、別山(2,399m)から南にのびる三ノ峰(2,128m)・銚子ヶ峰(1,810m)と続くいわゆる美濃禅定道(現在の石徹白道)です。白山は、日本の豪雪地帯で残雪も多いのですが、この残雪が障害物の灌木・樹木を埋めてしまうので最短コースで歩きやすくなります。また4月の雪は、凍結と融雪を繰り返した結果、硬く締って歩きやすくなります。毎年、夫の七蔵さんは雪の締り具合を観察して、日取りを決めていました。



林はるゑさんの実家上村家の墓前で(於 石徹白)  
左よりはるゑさんの長男茂さん、はるゑさん、夫七蔵さん。自家用車で来た。3人ではるゑさん雪道を来たことを振り返り感慨深い。

## 横渡して行く道

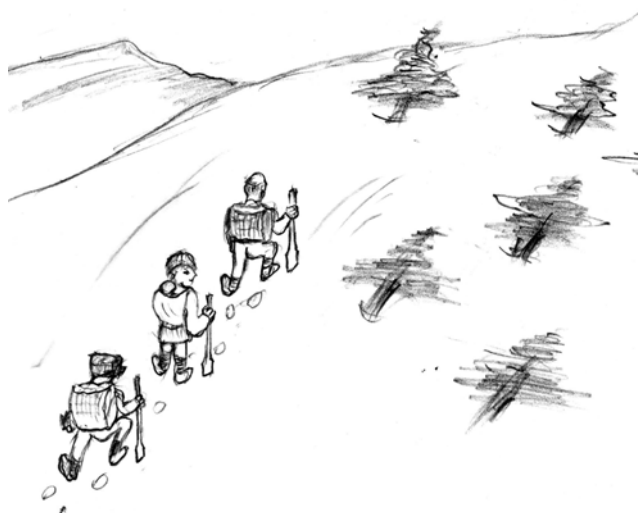
三ツ谷周辺はまだ雪で一杯。履物は、まず現代の靴下にあたる藁製ズボトで足先、布製キビスアテで踵かかとを守り、その上に藁製雪ワラジを履き、万が一のことを考え1足を余分に持ちましたがおとんど使いませんでした。ズボト・雪ワラジは雪で濡れますが、皆さんが心配する程冷たくはないものです。ピッケルの役目をするブナ製杖コシキを持ち、カンジキを担いで出発です。当時、三ツ谷の加藤金八さん(50歳代)は、伯父さんが石徹白におられ、「石徹白へ遊びに行かないか」と誘うと「一緒に行こう」ということで、どんな急壁でも伝い歩き、「白山の主」とよばれた先輩なので頼もしく、3人で行くこともありました。

まず杉峠へ、県境分水嶺を三ノ峰方向へ進み六本檜を過ぎると、夫七蔵さんの言葉で「三ノ峰へ登らず“横渡し”でいく」というコース取りをしました。横渡しとは狩猟用語です。尾根筋に小峰が幾つも連なった地形では、登り下りに多くの労力と時間がかかるので、積雪期の狩りでは尾根筋を避け、斜面を横切っていくコース取りをして近道をするのです。これは登山技術というトラバースで熟練した技術が必要です。スリップすると谷底まで滑落する危険をとまいません。具体的には地形図上1,671mの独標点より、三ノ峰・二ノ峰・一ノ峰と続く夏道コースを避け、打波川源流の谷壁を横切っていきます。七蔵さんは、この横渡しの雪氷歩行技術は幼少時より取得されていましたが、はるゑさんにとっては緊張感を緩めることのできない難所でした。まず、雪が緩み少し軟らかくなった時間帯に横渡しをするよう日程を組みます。実際場面では七蔵さんが先頭をきり、硬い雪斜面では杖コシキをピッケルのように使って足場を作り、はるゑさんが後に続いていきました。

## 迷いやすい笠場峠 かさばとうげ

銚子ヶ峰北側の緩傾斜地を加賀側の人  
は「笠場峠」という地名を使います。深瀬  
ひのきがさ  
桧 笠の材料原木を求めて、この辺一帯の  
自生ヒノキを伐採していた名残を示す地  
名です。真白の雪斜面に、トガ・ヒノキ  
が同じ形、同じ背丈でポツンポツンと生  
え、同じ景色が続くので濃霧の時は方向  
感覚が失われ、注意しなければなりま  
せんでした。時々、七蔵さんが、木の幹  
に鉋で横に三回傷をつけて行きます。こ  
れは濃霧で視界が効かない時の道標に  
なると聞き、感じ入って付いていきまし  
た。三本檜なら・カムロ杉を経て、十二抱え  
杉（石徹白大杉のこと）までくると安心  
しました。この大杉の周辺には、夏だけ  
生活する出作り小屋があり、万が一の時  
は利用できるの心強かったのです。

三ッ谷を朝8時頃出発、午後3~4時頃に、石徹白につきました。



笠場峠に行く  
画：林茂氏

## 永住出作りの山越惣左衛門家 やまこしろうざ えもん

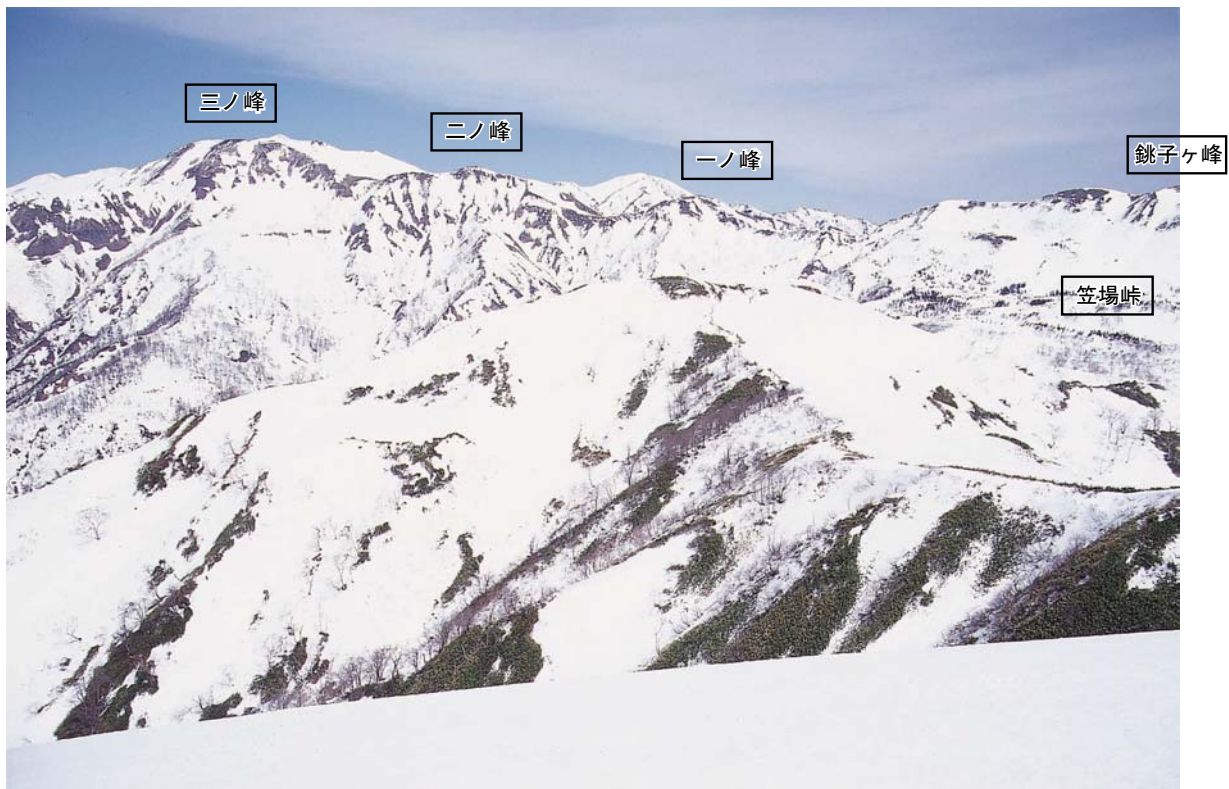
夫は翌日1人で同じルートで帰っていき、帰りは日取りを決め迎えにきてくれました。帰りには  
途中の山越惣左衛門家（通称そうざ）に1泊させてもらって三ッ谷へ帰る習わしでした。山越家は、  
県境分水嶺の六本檜の下（1,100m）にあった夏も冬も生活されていた永住出作りで、当時は打波川  
最奥の人間居住地でした。現在は「山越跡」の地名標識が立っています。市ノ瀬・三ッ谷・赤岩の  
人々が、積雪期に狩猟、鋏の柄・雪搔板作り、桧笠の材料の笠木採り等で三ノ峰・銚子ヶ峰・笠場  
峠へ出むく時、緊急避難場所として度々利用させてもらった貴重な出作り地でした。林さん・加藤  
さん両夫妻4人一緒のお里帰りをした時、行きに泊めてもらったことがありました。この時は日程  
に余裕もでき4人なので心強く、途中冬眠からさめた親子連れの熊にも会い、疲れたお里帰りとい  
うより楽しく思い出の多いお里帰りができました。

## 雪道が夏道より楽 らく

長男の出産前、夫の七蔵さんと2人で栃餅・熊の肉・絹製ワタボウシ・お酒等の土産品を担いで  
いきました。長男が乳離れしておぶってのお里帰りの時は、人夫を雇って土産品を担がせていきま  
した。はるゑさんの残雪期のお里帰りは、夫と2人は2回。長男茂さんをおぶっての3人は1回、  
加藤さん夫妻と一緒に1回でした。加藤せんさんも昭和4年頃、長男一男さんをおぶってお里帰  
りされています。

残雪期のお里帰りの距離は、地形図上の水平距離で約20kmです。夏道の橋立峠・杉峠経由の嫁  
入り道は25.5kmですので雪道のお里帰り道は、夏道より短くてすみました。林さん・加藤さんの2





願教寺山から見た残雪期の三ノ峰から銚子ヶ峰  
撮影：曾我 隆行氏

人の夫は「締った雪道は夏道より楽だ」と話されたのには驚きました。この場合の雪道とは、夏道の上に雪が降り積った状態でなく、多量の積雪が低木を埋めてしまうので最短コースを選べる道程をさします。お盆や秋祭りのお里帰りで土産が多い時は、橋立峠を避けて仏原に出て、九頭竜川・石徹白川沿いに歩きました。後には、仏原に出ると石徹白行きの乗合バスが通うようになり、また2人目の子供ができたので、雪道のお里帰りはやめ子供連れて仏原を經由して石徹白行きのバスを利用しました。

## 白山奥山の里帰り習俗

ヒマラヤのシェルパ族の事情に詳しい鹿野勝彦さん（金沢大学）によると、家畜を峠越えに移動させる時、家畜が「足をとられない（ごぼらない）、滑らない」雪氷環境を見究めた後、冬、最短コースをとって峠越えするといいます。三ッ谷・市ノ瀬の男性は、ヒマラヤ高地民と同じく、お里帰り全コースの雪の締め具合、氷化が緩む時間帯にトラバースする日程構成、緊急時の対応策等すべてを脳裏の中に入れてお里帰りされていたと思います。積雪期、2,000m級の山越えでお里帰りするという婚姻習俗は、林さん・加藤さんの代に始めたのではなく先祖からの習俗を受けついでもので、他地域には類例がありません。かつて白山地域に住んでいた人たちは、都市や平野の人々の全く気が及ばない雪氷技術で、白山の豪雪を克服して生活していたのです。





## はくさん 山のまなび舎だより

中宮展示館のキャラクター・いぬわし君

白山まるごと  
体験教室

# 思いは恐竜時代へ



### 化石で探る太古の白山

白山まるごと体験教室「化石で探る太古の白山」は7月23日、白山市木滑の白山自然保護センター本庁舎と市瀬戸の尾添川の河原で行われ、家族連れら37人が参加しました。

参加者は岩石や化石について説明を聞いた後、河原へ移動し、実際に石ころを観察したり、ハンマーで割って化石を探したりしました。2億年以上前の岩石や、恐竜がいた時代の1億数千万年前の貝の化石などを見つけ、太古の白山に思いをはせていました。

化石と岩石について話を聞く参加者

### 川虫と川遊び

# カワゲラ見つけた

白山まるごと体験教室「川虫と川遊び」は7月30日、白山市中宮の中宮展示館とその前を流れる蛇谷川で家族連れら37人が参加して行われました。蛇谷川は白山を源とする清らかな流れで、その川の中に入り、川の様子を観察したり、川虫を採取して顕微鏡で見たりしました。水の冷たさに感動しながら、手網や水中をのぞける箱めがねを使ってカワゲラ類、カジカガエル、イワナの稚魚、ゴリ（カジカ）などを見つけ出しました。

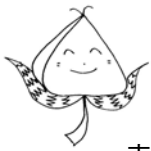
観察後は、思いっきり水遊び。参加者の半数が小学生でしたが、おもいおもいに川を体感できたようです。

手網と箱めがねで清流の生き物を探す参加者



清流に足を浸し川遊びに興じる子どもたち





市ノ瀬ビジターセンターのキャラクター・チブリ

しぜん もりだくさん

県民白山講座

## オオバコは人の足跡

### 白山の自然と人の影響

県民白山講座「白山の自然と人の影響」は7月17日、金沢市広坂の県立生涯学習センターで48人が参加して開かれました  
=写真=。

大阪府立大大学院生命環境科学研究科助手の中山祐一郎氏が「山岳域への雑草の侵入」と題して基調講演しました。中山氏は「オオバコはあなたの足跡です」と述べ、山岳域への雑草の侵入は登山など人為的な原因が多い点を指摘しました。引き続き白山自然保護センターの各研究員が登山道の侵食、スズメノカタビラなど山を登る植物、白山山頂にも現れたカラスやキツネについて、それぞれ研究発表をし、これらの予防対策が今後の課題とされました。



## 名前より、まず感じよう

白山自然ガイド  
ボランティア

### 第2回研修講座

名前にこだわらないで、自然をみてみよう。

自然は、まだまだ未知の世界。「名前」だけに注目してしまうと未知の世界と接する機会を逃してしまいます。自然からのメッセージに気づきにくくなってしまいます。

このような視点から白山自然ガイドボランティアの第2回研修講座は7月1日、市ノ瀬ビジターセンターで開かれました。参加者は岩屋俣谷園地を歩き、前半は名前を出さずに様々な植物などを観て感想を出し合いました。後半は、前半に養った感性を活かしながら、植物の分類と名前を学び合いました。

ホオノキの香りやテントウムシの脱皮などから各自が何かを感じ取れるように、案内する人と参加者との間で、言葉を交わしました。参加されたガイドボランティアの方から、「名前にこだわらない見方はおもしろくて、これからのガイドウォークに活かしていきたい」との抱負が聞かれました。



虫を見つけました。何という虫か名前をせんさくする前に、その形や動きなど虫そのものをよく観察することの大切さを学ぶ参加者

ガイドウォーク  
のお知らせ



5月～10月の土、日、祝日の午前10時～正午、午後1時～3時の1、2時間。  
無料 事前申込み不要 団体(20名以上)の場合はあらかじめご連絡下さい。

市ノ瀬 集合場所：市ノ瀬ビジターセンター (0761-98-2504)

内容：ブナ林や白山の展望などを楽しむことができます。

中宮 集合場所：中宮展示館 (0761-96-7111)

内容：秋の草花や紅葉を楽しむことができます。





## 市ノ瀬ビジターセンター

### 私の作品、見て！

市ノ瀬ビジターセンターの「自然素材を使った工作」コーナーが子どもたちの人気を集めています。ドングリや小枝などを材料に動物の人形を作っています。アイデアいっぱいの楽しい作品ばかりで、工作を通じて白山の自然に親しんでもらっています。



ブナ、クルミ、トチノキなどの実で作った作品



## 中宮展示館



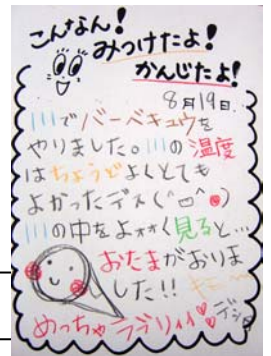
自然への感動をつづったカードの展示

### 見つけた 感じた

「こんなん みつけたよ! かんじたよ!」

中宮展示館では、来訪者の方が周辺で見つけたもの、感じたものを、自由に書いていただくコーナーを設けています。様々な視点の多さに驚かされます。これを見た来訪者の方も楽しめて、来訪者同士を結んでいる場にもなっています。

感動をつづったカード



## お知らせ

### 白山まるごと体験教室

#### 紅葉のブナ原生林

日程：10月15日(日) 9:00~15:00  
集合：市ノ瀬ビジターセンター  
(白山市白峰)  
定員：30名  
内容：樹齢数百年のブナの原生林の紅葉を満喫します。

#### かんじきハイキング

日時：2月18日(日) 10:00~15:00  
集合：ブナオ山観察舎  
(白山市尾添)  
定員：30名  
内容：かんじきをはいて雪の上を歩きながらのアニマルトラッキング。



対象 子ども(小学生以上)~大人  
(参加費無料)

申込み・問合せ 電話で石川県白山自然保護センター(0761-95-5321)までお申込み下さい。約1カ月前から受付を開始します。定員に達し次第締め切ります。

<編集・谷野一道>

## センターの動き (6月30日～9月30日)

- |         |                        |               |         |                            |         |
|---------|------------------------|---------------|---------|----------------------------|---------|
| 7.1     | 白山夏山開山祭                | (白山)          | 8.22    | ライン祭                       | (白山市白峰) |
| 7.12    | 白山自然保護調査研究会幹事会         | (金沢市)         |         | ユネスコ生物圏保存地域(MAB)視察         |         |
| 7.15    | 県民白山講座「白山の自然と人の影響」     |               |         |                            | (中宮展示館) |
|         |                        | (金沢市)         |         | 大阪扇町高校人文学科演習講師             | (中宮展示館) |
| 7.22-23 | あなたもブナの木を育てましょう②講師     |               | 8.24    | いしかわ県民大学校講演                | (金沢市)   |
|         |                        | (中宮展示館)       | 8.26-27 | 白山外来植物除去作業ボランティア           |         |
| 7.23    | 白山まるごと体験教室「化石で探る太古の白山」 |               |         |                            | (南竜ヶ馬場) |
|         |                        | (本庁舎)         | 8.31    | 白山夏山閉山祭                    | (白山)    |
| 7.28    | 石川県ツキノワグマ・イノシシ対応研修会    |               | 9.4     | 白山別当出合鳥居竣工式                | (別当出合)  |
|         |                        | (白山市)         | 9.9-10  | あなたもブナの木を育てましょう③講師         |         |
| 7.30    | 白山まるごと体験教室「川虫と川遊び」     |               |         |                            | (中宮展示館) |
|         |                        | (中宮展示館)       | 9.16-17 | 白山外来植物除去作業ボランティア           |         |
| 8.3     | 石川県立大学案内 (市ノ瀬ビジターセンター) |               |         |                            | (白山室堂)  |
| 8.5     | 能美市吉原町PTA案内            | (中宮展示館)       | 9.23    | 白山まるごと体験教室「秋の音、ネイチャーコンサート」 | (中宮展示館) |
| 8.6     | 白山市美川公民館案内             |               | 9.30    | 県民白山講座「生きている白山火山ー噴火と地震ー」   | (白山市)   |
|         |                        | (市ノ瀬ビジターセンター) |         |                            |         |
| 8.8     | 中宮温泉薬師祭                | (白山市中宮)       |         |                            |         |
| 8.12    | シンポジウム 人と野生動物の未来は？     |               |         |                            |         |
|         |                        | (金沢市)         |         |                            |         |

## 編集後記

今年の梅雨は、例年に無い激しい雨が降りました。この雨の影響で白山へ通じる県道白山公園線は1週間も通行止めになり、登山はもちろんのこと入山者も山で足止め状態となってしまいました。また登山道沿いで崩壊が発生し、観光新道は1時期通行止めとなりました。結局、梅雨明けは7月30日頃と例年に比べ遅めとなり、今年の7月は白山登山も思うに任せない時期となってしまいました。登山の愛好者の皆さんもやきもきされたことでしょう。

しかし、8月に入ると、天気の良い日が続き、下界の暑さと無縁な雲上の世界が、待ちくたびれた登山者を迎えてくれました。特に今年は高山植物の見事なお花畑を楽しむことができました。今年は残雪が多く雪解けが遅かったことなどにより、高山植物の開花は遅れ、その花が一斉に開花し、お花畑を各所で見ることができました。お花畑は8月の下旬になっても楽しむことができ、むしろ、この時期はハクサントリカブトなど秋に咲く花も開花し、2重に白山の花を楽しむことができましたようです。

季節は秋、里ではこれから紅葉本番ですが、白山は一足早く冬ごもりの時期を迎えます。(小川)

## 目次

表紙 白山麓の風景ー黍、実る秋	林 哲	1
白山のキツネは何を食べているのか		
ー糞分析によるキツネ、テン、オコジョの食べ物ー	上馬 康生	2
銀嶺を越える里帰りの道ー白峰から石徹白へー	橘 礼吉	8
はくさん 山のまなび舎だより	谷野 一道	13

はくさん 第34巻 第2号 (通巻140号)

発行日 2006年9月30日 (年4回発行)  
編集発行 石川県白山自然保護センター  
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4  
TEL. 0761-95-5321 FAX. 0761-95-5323  
URL <http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/>  
E-mail [hakusan@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:hakusan@pref.ishikawa.lg.jp)  
印刷所 前田印刷株式会社